

# 流山 九条ニュース

「九条の会・流山」事務局

阿部 7140-7605 石林 7154-7511

齋藤 7143-0374 三原 7152-6559

2009.10.1 NO.43



「九条の会・流山」HP：<http://www.nagareyama9.org/> メール：[info@nagareyama9.org](mailto:info@nagareyama9.org)

## 「核兵器のない世界を」安保理決議

国連安全保障理事会が「核兵器のない世界の条件を作る」ことを決議しました。核廃絶への動きにことごとく反対し妨害してきたアメリカの変化で急速に世界の世論が変わりつつあるかに見えます。逆に言えばたった一つの国の変化で世界が変わる。その変化を妨げてきた国をイエスマンとして支えてきた日本の政府の責任は重大です。私たちの活動が世界に大きな責任を持つことをあらためて思わざるを得ません。

## 改憲派議員大量落選！ 139→53 に激減

改憲派の議員集団「新憲法制定議員同盟」（会長・中曽根康弘元首相）所属の衆院議員が、総選挙での大量落選で激減しました。現職の衆院議員で同盟に加わっていたのは139人（自民122人）。そのうち、今回総選挙で再選したのは53人（自民39）で73人が落選。九条の会としては歓迎すべき結果といえるでしょう。

しかし逆に大量に当選した民主党の新人議員の憲法九条への態度は不明です。九条の会・流山の世話人会では小沢氏や鳩山氏をはじめ民主党の改憲派のリーダーが新人議員をどのようにリードするのかを懸念する声があり、全国九条の会にもこの方たちへの働きかけをしてほしいと意見を伝えました。私たちに出来ることは何でしょうか？

## 戦争反逆者の名誉回復



—— ドイツで今も続く戦後処理 ——  
裁判によらず判決取り消し ドイツ連邦議会は9月8日、包括的名誉回復法を決めました。ナチス政権は第2次大戦中に国軍刑法に「反逆罪」を加え、利敵行為、捕虜、ユダヤ人の逃亡援助、反戦言動などに死刑を含む重罰を科しました。軍事裁判で3万人が死刑判決を受け、2万人が処刑され

ました。この戦争反逆罪に問われた人々全員の判決を取り消すのが包括的名誉回復法です。ナチス政権が崩壊し、その戦争犯罪は追及されていますが、ナチスによって有罪とされた人々の判決は戦後も取り消されませんでした。犯罪人扱いされてきた元軍人と遺族は1990年に全国ナチス不当軍事裁判被害者協会を設立、名誉回復を求めてきました。今回の法律は裁判のやり直しではなく、裁判手続きによらない判決取り消しを定めたもので、すでに02年に脱走行為などに限って適用されていたものを戦争反逆罪にも適用し、軍事裁判による被害者全員の名誉回復を図るものです。

ドイツの戦後処理 戦後ドイツは東西分裂の中でナチスの戦争犯罪を時効を停止して無期限に追及し、ナチス賛美の活動を禁じるなど、大戦に対する責任と姿勢を明確にしています。国として西欧12カ国に対する賠償やユダヤ人への賠償を支払ったほか、さらにユダヤ人を強制連行して働かせたクルップやIGファルベンなどの大企業も賠償を行っています。お金だけでなく教科書でもアウシュビッツでのユダヤ人大量虐殺の残虐行為が行われたポーランドとは対話を行い、ナチスの行ったことやポーランドの人々の抵抗運動などを正確に詳しく教科書に記述するなどの努力をし、加害国としての誠意のある姿勢が受け入れられて現在のドイツの位置を築いてきました。

日本は 日本はドイツと対照的だといわれます。それは戦争責任も明確にされず、戦争そのものさえその性格をあいまいにしようとされているからです。対外的には教科書問題でクローズアップされた南京大虐殺や従軍慰安婦はなかったとか、さらには侵略戦争はなかったなどという歴史認識が国政の中心や自衛隊幹部から公言されて、いまだにアジア諸国との摩擦が絶えません。

国内的にも原爆をはじめ国民の戦争被害も補償されず、世紀の悪法といわれる「治安維持法」も総括されず、被害の救済が行われていません。

## 「学習と懇談のつどい」に参加して

林 計男 (はやし かずお)

9月9日、「九条の会・流山」世話人会の「学習と懇談のつどい」に参加しました。

講師の難波久さん(駒木在住、元高校教員、NPO法人未来塾)は、「私は1928年生まれの82歳ですが、安部内閣以降のきなくさい動きには警戒が必要だと考えています。小さな動きのうちに、戦争の足音を消さなければならない。その意味で、80歳を超えた老人の自分も少しは役に立つと考えています」と語りはじめました。

難波さんは、A3版の紙面いっぱい小学唱歌、軍歌、和歌などを記載されたレジュメを配布され、自ら声を上げて歌い、また、テープに録音された歌を紹介されながら、熱意をこめて語って下さいました。

難波さんが3歳のとき満州事変が勃発(1931年)それから1945年の敗戦まで、ご自分の幼年期から青年期まで、徹底した軍国主義教育をたたきこまれ、配属将校から「諸子は人生25年と思え。祖国のために生命を捧げよ。死んで靖国神社に祀られるのは、男子の本懐ではないか」と訓示された。物資は欠乏したが、「欲しがりません、勝つまでは」と一切の欲望を封じこめられた。戦争は弱者に犠牲を強いる。女性、子ども、老人は「役立たず」として粗末に扱われた。戦争になると、人々は狂気に走り、肉親は離反し、「隣組」制度で相互不信と相互監視の密告社会に追い込まれた。指導者はムードに流されやすい日本人の国民性を利用し巧みに誘導した。治安維持法で戦争に反対する者は弾圧された。戦争は金もうけが目的であって、「正義の戦争」などはない。戦争で勝った側も、負けた側も犠牲を強いられ、深い傷を残す。310万人の戦没者を出したあの戦争は誰がはじめたのか。誰一人「私が戦争を始めた」という人がいない。「無責任時代」の遠因はここにあった。戦後64年経過して、日本は格差社会となり、貧富の差は広がり、世の中は荒廃した。

難波さんは、「今後も平和を叫び、九条を守り、子や孫を忌まわしい戦争の惨禍に陥れないよう声を

上げ続けて行きたい」と情熱を込めて結ばれました。

私は難波久さんより一回り下の1940年生まれです。1945年5月末の横浜大空襲で生家を焼かれました。横浜へ墓参するといつも、我が家の墓の周囲の、戦没兵士の墓の数の多さが気になります。墓碑には、「 作戦で戦死」などの表示があります。実にたくさんあるのです。亡父は幸いシベリアから無事生還しましたが、祖母から、戦争で一家が全滅したり、父が戦病死したり、母や兄弟姉妹が空襲で亡くなった話を聞かされて育ちました。

オバマ米大統領が「核兵器廃絶」を呼びかけたように、情勢は動いてはいますが、楽観は出来ません。九条の「国の交戦権は認めない」との条項に解釈の余地は無いとの、難波さんの指摘は重要です。私も「戦争反対、九条守れ」の運動に引き続き参加して行きます。

## 九条の会・流山の予定

### 自衛隊広報センター見学



九条の会として講演や映画だけでなく様々な活動に取り組もうと考えています。ソマリア沖の海賊対策、北朝鮮のミサイル迎撃など時々ニュースになります。といった自衛隊の実情はどうなっているのか知ろうと、見学会を企画しました。

11月14日(土) 練馬の自衛隊広報センターを予定しています。詳細は次号でお知らせします。

### 定例駅頭宣伝

10月は 9日(金) 15:30~16:30

駅頭宣伝 流山おおたかの森駅

9月の定例宣伝は9日で長崎の原爆の日。難波さんのお話を伺った後で移動し、12名の参加で活発に宣伝できました。最近では世話人だけでなくいろいろな方が参加され、定着すれば嬉しいことです。会員のみならず、短時間でも結構です、ぜひご参加下さい。

.....  
カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130 - 5 - 464735 口座名 九条の会流山